

こもろの時間対談企画 山下教育長×相原校長

「小諸市の小中一貫教育の推進について」

令和5年7月に小諸市学校再編計画が策定され、校長会でも小中一貫教育推進委員会（以下「推進委員会」）を立ち上げ、これからの小諸市の教育について検討を重ねてきています。これまでの取り組みとこれからの教育について、山下教育長と推進委員会委員長の相原芦原中学校長が熱く語りました。

図 学校教育課 教育総務係



小中一貫教育推進委員会委員長
芦原中学校長 相原修

Q1 推進委員会での検討状況はどうでしたか？

相原校長（以下「相原」）…すべての出発点は子どもです。各校、今の子ども「よい所」や「課題」を洗い出し、共有するところからスタートし、その背景について議論しました。今後、「小諸市の小中一貫教育のビジョン」を教育委員会と一緒に策定し、各校で取り組みを進めていきたいと考えています。

山下教育長（以下「山下」）…推進委員会の議論は、各校の教員が子どもたちの姿をしっかり見てくれていると感じました。今を分析することで、

未来が見えてきます。これからの教育をどうしていくか様々な教育論をぶつけて、何が必要か検討しましたね。

相原…学習について言えば、提示された課題を理解できないケースがあります。同じ小学1年生であってもそれぞれの育ちが違うため、言葉の理解度が違います。先生が同じことを言っても理解できる子と理解できない子が出てきます。

子どもにもありますが、今の一斉講義型の授業だと「わからないことを聞くこと」が意外に難しい。聞くことができないとわからないまま授業が進み、どこかで「学びの

シャッターがおりる」という状況が生まれることもあると感じています。

山下…「学びのシャッターがおりる」という言葉は、現状を端的に表していると胸に落ちました。大人も同じで「わからない」と言える環境と安心感が大切ですね。

Q2 小中一貫教育を進めるとそういった課題が解決するのでしょうか？

山下…学習内容は学習指導要領によって定められており、小中一貫教育によって学ぶ内容が大きく変わるといわけではありません。

相原…何が変わるかと言えば、「学び方が変わり、その学び方で9年間通して学ぶようになる」ことだと考えています。

子どもたちがそれぞれの教室で様々な「学び方」で学び、9年間同じ「学び方」で学んだ方が、今求められている資質・能力を育むのに効果的なことは確かだと思います。

山下…9年間通して同じ「学び方」をすることで、安心して授業に臨むこともできますよね。

Q3 「学び方」についてもう少し詳しくお願いします。

山下…まず、我々の常識を見

山下…教員不足が深刻化している中で、限られた人材でより効果的な教育を進めたいですね。

相原…他にも、子どもたちが廊下をすれ違ったときに自然と交流する姿がありました。同じ学校だからこそ、しつらえた交流ではなく自然な交流が日常化することで、上級生は上級生に憧れるようになるのかなと思います。

本校で先日保育実習がありましたが、中学3年の生徒が保育園児に優しく接する姿を見て令和10年の姿をリアルに想像しましたね。

山下…日常生活の中で様々な交流が生まれることで学校に馴染みにくい子が減り、誰もが安全安心に過ごせる学校になって欲しいですね。

相原…交流がもたらす効果として期待できますよね。視察をして「新校」という箱に何を入れるかが大事だと改めて感じました。推進委員会では子どもの姿として「人柄のよさ」があげられました。よいうところは活かしながら学校づくりを進



小諸市教育長
山下千鶴子

一方的に話を聞くより、自分も話す場があった方が主体的になり、内容も頭に入っていきますよね。授業も「アウトプット」の場を増やしていくことがポイントだと思っています。

山下…ペアやグループにすることで「聞きやすさ」にもつながりますよね。

相原…そうですね。「子どもを信頼する」ことが大事だと思います。子ども同士でわからないことを聞き合ったり、考えを交換し合ったり、発達段階にもよりますが、子どもに委ねた方がうまくいくことはたくさんあります。

Q4 視察も多く行かれてますが、どうでしたか？

山下…一部、市議会議員の皆さんにも同行いただきましたが、教育委員、校長を中心に視察を重ねました。東京の視察で専科教員は図工と音楽だと聞きました。長野県は音楽と理科が多いです。絵を描くことで心が育つという話もあり、図工、体育など技能教科を専科教員に学ぶことも大事だと思えました。

相原…芦原中学校区は3小学校が統合されて、芦原中の敷地に併設することは決まっています。小中別々の学校にするか、小中が一つの学校になるかは決



木島平小学校を視察しました

まっていますよね。

山下…そうなんです。少し補足すると、小学校と中学校にそれぞれ校長がいる場合は別々の学校。小中を一人の校長で運営していたら同じ学校ということですね。

相原…ありがとうございます。両方の学校を視察して、外見上は同じように見えても、中は相当違うことがわかりました。例えば、教育長の言われた、より専門的に学ぶという観点で言えば、中学校の専科教員が小学生を教える方法があります。しかし、隣り合っている別々の学校では、そういう人材の有効活用は難しく、同じ学校だからできるという面があります。



めていきたいですね。

Q5 最後に一言ずつお願いします。

山下…学校づくりは、だれか一人の力でできるものではありません。多くの人の力が集まる必要があると考えております。これからも皆さんのお力をお借りしながら、小諸市の子どもたちのためによりよい学校づくりを目指して参ります。

相原…教育は創造的な営みであり、それは主体的な取り組みの中で実現できることだと思っています。強いられる中で創造性は発揮されませんが、関係する皆さんの主体性が生まれるプロセスを大切に進めていきたいと思っています。